

# エコアクション21

2023年度

## 環境経営レポート

2022年10月1日～2023年9月30日

1. 組織の概要及び対象範囲
2. 環境活動実施体制
3. 環境経営方針
4. 基準年の環境負荷と環境経営目標
5. 環境経営計画、環境経営目標の実績および環境経営計画の取組結果その評価
6. 次年度の取組内容
7. 環境関連法規等の遵守状況の確認および評価の結果並びに違反、提訴等の有無
8. 代表者による全体評価と見直し結果

2024年 4月15日 発行

2024年 6月 5日 改訂



昭和電子工業株式会社

## 1. 組織の概要及び対象範囲

### 1-1. 事業所および代表者氏名

昭和電子工業株式会社  
代表取締役 筒井 昌昭

### 1-2. 所在地

神奈川県相模原市南区麻溝台 8-18-46

### 1-3. 環境管理責任者氏名および担当者連絡先

環境管理責任者 技術部長 菊地原 豊

連絡先 Tel : 042-744-2112 Fax : 042-744-2122

Email : kikuchihara@showa-ele.jp

### 1-4. 事業活動の内容

製造業

- ・電子機器の製造・販売
- ・自社製品の電気工事及び電気通信工事の施工

### 1-5. 事業の規模

2023年度(2022年10月~2023年9月)実績

売上高 : 158,991,000円

従業員数 : 28人

延床面積 : 1593㎡

### 1-6. 認証・登録対象組織

昭和電子工業株式会社 全組織

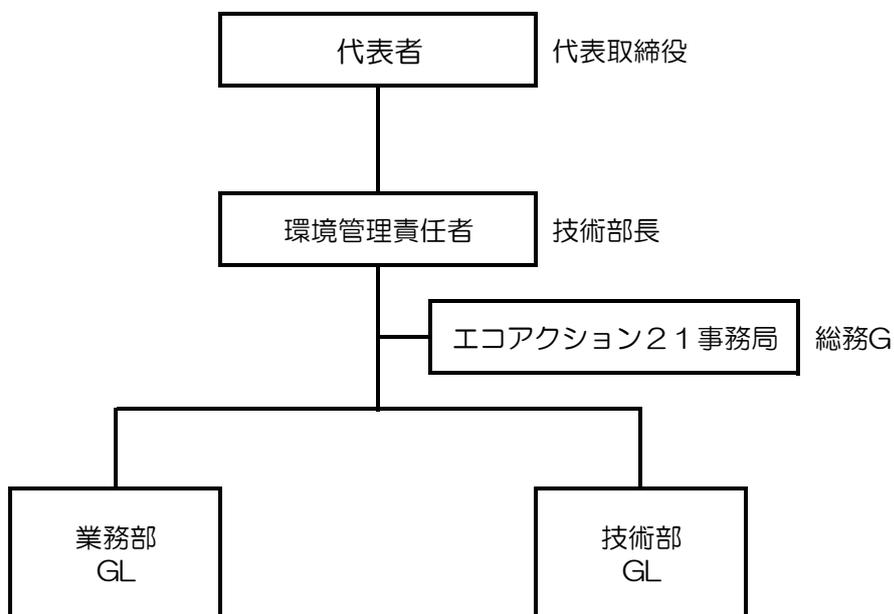
### 1-7. 認証・登録対象活動

製造業

- ・電子機器の製造・販売
- ・自社製品の電気工事及び電気通信工事の施工

## 2. 環境活動実施体制

### エコアクション21 実施体制



役割	責任・権限
代表者	環境経営方針の策定 環境管理責任者の任命 環境経営システムの構築・運用に必要な資源の準備 環境経営システム全体の評価と見直し 経営における課題とチャンスの明確化
環境管理責任者	環境経営システムの構築・運用管理 環境経営目標及び環境活動計画の策定 代表者へ環境経営システム運用状況の報告 環境経営レポートの承認 環境上の緊急事態への準備及び対応
エコアクション21事務局	環境経営計画の実施状況確認 環境関連法規等の最新版の取りまとめ及び遵守状況確認 環境経営レポートの作成
部門長 GL	部門の環境目標を達成するための環境活動計画の運用管理
全従業員	環境経営方針に基づく日常業務の推進 環境経営目標を達成するための環境活動計画の運用

### 3. 環境経営方針

## 環境経営方針

昭和電子工業株式会社は、ますます深刻化する地球温暖化等に対し、計測器の製造に伴う事業を通して環境経営に対してなすべき行動がとれる人材を育成し、業務改善を通して環境負荷の削減(省資源・省エネ等)に自主的・積極的・継続的に取り組みます。

### <行動指針>

1. 具体的に次のことに取り組みます。

- ①. 品質向上と作業効率の向上
- ②. 電力・燃料の消費に伴う二酸化炭素排出量の削減
- ③. 廃棄物の3R（減量、再利用、再生利用）の推進
- ④. 節水の推進
- ⑤. 化学物質の適正管理
- ⑥. 事務用品のグリーン購入
- ⑦. 環境保全に配慮した製品の製造及び資材の購入に努めます。

2. 環境関連法規制や当社が約束したことを遵守します。

2016年9月28日 制定

2019年9月28日 改定

昭和電子工業株式会社

代表取締役 筒井 昌昭

#### 4. 基準年の環境負荷と環境経営目標

目標達成状況の見方 ○：達成率 100%以上、△：達成率 100%未満～90%、×：達成率 90%未満

NO	項目	環境目標項目	目標達成のための手段	基準値	目標と実績		評価
				2018年度 2017年10月 ～ 2018年9月	2023年度 2022年10月 ～ 2023年9月 目標	2023年度 2022年10月 ～ 2023年9月 実績	2023年度 2022年10月 ～ 2023年9月 評価
1	二酸化炭素排出量	電気使用量の削減	①エアコンの適正使用 夏季28℃、冬季25℃ ②天井灯業務時間外の消灯 ③作業手順を考えた製造 ④設備・機器の未稼働時の切断、時間短縮 ⑤再生可能エネルギーを含む市場連動型プランの導入	68,369 kwh	68,196 kwh	63,961 kwh	○
		ガソリン量の削減	①エコドライブの徹底 ②アイドリングストップの徹底 ③公共交通機関使用の励行 ④燃費9km/L以上を目標とし、励行する。	3,981 ℓ	3,971 ℓ	1,539 ℓ	○
		二酸化炭素排出量の削減	合計 (kg-CO <sub>2</sub> )	45,795 kg-CO2	45,680 kg-CO2	34,589 kg-CO2	○
2	廃棄物排出量	一般廃棄物排出量の削減	①電子化、両面コピーのによるコピー用紙使用量削減	0.72t	0.72t	0.68t	○
		産業廃棄物排出量の削減	①分別の徹底 (銅線、金属くず、廃プラ類)	1.0t	1.0t	4.2t	×
3	総量排水	節水 (生活用水のみ使用)	①節水の心がけ	214 m <sup>3</sup> /年	214 m <sup>3</sup> /年	221 m <sup>3</sup> /年	△
4	化学物質	化学物質の適正管理	①保管量の厳守 ②保管・使用状況の点検 (使い切り、購入時下取り)	トルエン 200g	トルエン 200g	トルエン 200g	○
5	環境負荷削減	環境負荷低減製品の開発	①禁止物質の使用禁止遵守 ②省エネ製品の開発・製造を顧客対応で実施 ③RoHS対応製品の拡大 ④客先品質基準の遵守徹底 ⑤従業員へのOJT教育の実施 ⑥省エネ生産技術の検討	環境負荷低減商品の 開発・製造	環境負荷低減商品の 開発・製造	環境負荷低減商品の 開発・製造	○

※2023年度実績における二酸化炭素排出係数は、2020年度実績の日本テクノ(株)調整後排出係数0.485kg-CO<sub>2</sub>/kWhを適用した。

【基準値について】ガソリン量、一般廃棄物排出量は2019年実績をベースにした。水使用量は新型コロナウイルス流行により増加が続いた為、2021年実績をベースにした。

※2023年度 二酸化炭素総排出量は、34,589kg-CO<sub>2</sub>であった。

## 5. 環境経営計画、環境経営目標の実績、取組結果とその評価

目標達成状況、実施状況の見方 〔○：達成率 100%以上 △：達成率 100%未満～90% ×：達成率 90%未満〕 〔■：実施 □：未実施〕

No	環境目標項目	基準年度 2018年	目標	施策(具体的活動内容)	施策実 施状況	推進 責任者	計画/結果	実施状況				主な内容
								1Q	2Q	3Q	4Q	
1	二酸化炭素排出量の削減	68,369 kWh	68,196 kWh (定量把握)	①エアコンの適正使用 ②天井灯業務時間外の消灯 ③作業手順を考えた製造 ④設備・機器の未稼働時の切断、節電準備時間の短縮 ⑤再生可能エネルギーを含む市場連動型プランの導入	■	製造G	目標	17,272	20,127	13,572	17,225	エアコン適正使用や電気消灯の習慣が定着し、年間通して削減目標を達成できた。
							目標累計	17,272	37,399	50,971	68,196	
							実績	14,630	17,282	11,537	20,512	
							実績累計	14,630	31,912	43,449	63,961	
							進捗評価	○	○	○	○	
	2) ガソリン使用量の削減 3) 燃費の改善	3,981 ℓ	3,971 ℓ	①エコドライブの励行 ②アイドリングストップの徹底 ③公共交通機関使用の励行 ④燃費9km/L以上を目標とし、励行する。	■	資材G	目標	844	1,248	922	957	本社・工場の移転を控え、仕事量を抑制したことで、現地作業量が減少し、車での移動回数が減少した。
							目標累計	844	2,092	3,014	3,971	
							実績	468	390	281	399	
							実績累計	468	858	1,139	1,539	
							進捗評価	○	○	○	○	
二酸化炭素排出量		45,795 <kg-CO2/年>	45,680 <kg-CO2/年以下>	電気使用量絶対値で 0.25% 削減 ガソリンは、定量管理 二酸化炭素排出量0.25%削減を目標とする。	■		目標	11,941	12,550	9,253	11,936	本社・工場移転を控え、仕事量を抑制したため、ガソリン使用量が減ったことでCO2排出量が減少した。
目標累計	11,941						24,492	33,745	45,680			
実績	8,181						9,287	6,247	10,874			
実績累計	8,181						17,468	23,715	34,589			
進捗評価	○						○	○	○			
2	廃棄物排出量の削減	0.72t	0.72t (1Qごとに0.18t)	業務用ゴミ排出の実態把握	■	総務G	実績	0.126	0.183	0.168	0.205	本社・工場移転を控え、引っ越し量を減らすために整理したことで一般廃棄物の排出量は後半増加したが年間削減目標は達成できた。
							実績 累計	0.126	0.309	0.477	0.682	
							進捗評価	○	△	○	△	
	産業廃棄物排出量の削減	1.0t	1.0t	産業廃棄物の実態把握	■	技術部長	実績	1.05	0	0	3.15	本社・工場移転を控え、引っ越し量を減らすために整理したことで産業廃棄物の排出量の年間削減目標が達成できなかった。
							実績 累計	1.05	1.05	1.05	4.20	
							進捗評価	△	○	○	×	
3	水使用量の削減節水	214 m <sup>3</sup> /年	214 m <sup>3</sup> /年	節水の奨励	■	総務G	実績	46	49	56	70	感染症対策のための手洗いを奨励したため、節水しつつも年間削減目標を達成できなかった。
							実績 累計	46	95	151	221	
							進捗評価	○	○	△	△	
4	化学物質の適正管理	トルエン 200g	トルエン 200g	①保管量の厳守 ②保管・使用状況の点検	■	製造G	計画	実施	実施	実施	実施	適正管理を継続している。
							結果	○	○	○	○	
							進捗評価	○	○	○	○	

目標達成状況、実施状況の見方 [○：達成率 100%以上 △：達成率 100%未満～90% ×：達成率 90%未満] [■：実施 □：未実施]

No	環境目標項目	基準年度 2018年	目標	施策(具体的活動内容)	施策実 施状況	推進 責任者	計画/結果	実施状況				主な内容
								1Q	2Q	3Q	4Q	
5	環境負荷低減製品の開発	—	—	①使用禁止物質の使用禁止遵守	■	技術部長	計画	実施	実施	実施	実施	施策の推進を継続している。
				結果			○	○	○	○		
				②省エネ製品の開発・製造を顧客対応で実施。 (仕様書通り製品ができていますか。)			計画	実施	実施	実施	実施	
				結果			○	○	○	○		
				③RoHS対応製品の拡大 (順次対応しているか。)			計画	実施	実施	実施	実施	
				結果			○	○	○	○		
				④客先品質基準の遵守徹底 (4Mの励行ができていますか。)			計画	実施	実施	実施	実施	
				結果			○	○	○	○		
				⑤従業員へのOJT教育の実施 (教育計画の実施状況はどうだったか。)			計画	実施	実施	実施	実施	
				結果			○	○	○	○		
⑥省エネ生産技術の検討 (DRを実施していたかどうか。)	計画	実施	実施	実施	実施							
結果	○	○	○	○								
進捗評価	○	○	○	○								

※2023年度実績における二酸化炭素排出係数は、2020年度実績の日本テクノ(株)調整後排出係数0.485kg-CO<sub>2</sub>/kWhを適用した。

【基準値について】ガソリン量、一般廃棄物排出量は2019年実績をベースにした。水使用量は新型コロナウイルス流行により増加が続いた為、2021年実績をベースにした。

※事業実績変動が大きいため、目標はスライド方式を採用した。※本社・工場を9月に移転したため、9月の電気使用量は参考値として計上した。

## 6. 次年度の取組内容

環境目標は、環境方針に基づく環境への取組と自主項目の5項について策定した。エコアクション 21 の活動を開始以降環境に対する意識が高まり、PDCA を確実に回し継続的に改善していく。

No.	項目	環境目標項目	取組内容	基準値	目標	中期目標	
				2018年度 2017年10月～ 2018年9月	2024年度 2023年10月～ 2024年9月	2025年度 2024年10月～ 2025年9月	2026年度 2025年10月～ 2026年9月
1	二酸化炭素排出量	電気使用量の削減	①エアコンの適正使用 ②天井灯業務時間外の消灯 ③作業手順を考えた製造 ④設備・機器の未稼働時の切断、時間短縮 ⑤再生可能エネルギーを含む市場連動型プランの導入	68,369 kwh	新工場稼働につき 現状把握をおこなう	2024年度実績を もって目標を再設定する	2024年度実績を もって目標を再設定する
		ガソリン使用量の削減	①エコドライブの徹底 ②アイドリングストップの徹底 ③公共交通機関使用の励行 ④燃費9km/L以上を目標とし、励行する。	3,981 ℓ	0.25% 削減 3,971 ℓ	0.5% 削減 3,962 ℓ	1.0% 削減 3,942 ℓ
		二酸化炭素排出量の削減 合計 (kg-CO <sub>2</sub> )		45,795 kg-CO <sub>2</sub>	0.25% 削減 45,680 kg-CO <sub>2</sub>	2024年度実績を もって目標を再設定する	2024年度実績を もって目標を再設定する
2	廃棄物排出量	一般廃棄物排出量の削減	①電子化、両面コピーによる コピー用紙使用量削減	0.72 t	0.72 t	0.72 t	0.72 t
		産業廃棄物排出量の削減	①分別の徹底 (銅線、金属くず、廃プラ類)	1.0 t	1.0 t	1.0 t	1.0 t
3	総量排水	節水 (生活用水のみ使用)	①節水の心がけ	214 m <sup>3</sup> /年	新工場稼働につき 現状把握をおこなう	2024年度実績を もって目標を再設定する	2024年度実績を もって目標を再設定する
4	物化学	化学物質の適正管理	①保管量の厳守 ②保管・使用状況の点検 (使い切り、購入時下取り)	トルエン 200 g	トルエン 200 g	トルエン 200 g	トルエン 200 g
5	環境負荷削減製品	環境負荷低減製品の開発	①禁止物質の使用禁止遵守 ②省エネ製品の開発・製造を顧客対応で実施 ③RoHS対応製品の拡大 ④客先品質基準の遵守徹底 ⑤従業員へのOJT教育の実施 ⑥省エネ生産技術の検討	環境負荷低減商品の 開発・製造	環境負荷低減商品の 開発・製造	環境負荷低減商品の 開発・製造	環境負荷低減商品の 開発・製造

【基準値について】ガソリン量、一般廃棄物排出量は2019年実績をベースにした。水使用量は新型コロナウイルス流行により増加が続いた為、2021年実績をベースにした。

※事業実績変動が大きい為、目標はスライド方式を採用した。

※2024年度は、工場移転に伴い電気使用量と水の使用量は現状把握を行うため評価はしない。

## 7. 環境関連法規等の遵守状況の確認および評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

環境関連法規の遵守状況について、『環境関連法規の取りまとめ表』に基づき確認し評価した結果、環境関連法規等への違反・訴訟はありませんでした。

尚、関係当局より違反等の指摘は過去3年間ありません。

法規制等名称	要求内容	遵守状況
廃棄物の処理及び清掃に関する法律 (排出事業者対応)  相模原市廃棄物の市条例	産業廃棄物収集・運搬の委託契約の締結(許可証の確認)する。	○
	委託契約書(許可証を含む)の5年間保存。	○
	産業廃棄物管理票(マニフェスト)交付(A票、B2票、D票、E票の5年間保管)する。	○
	産業廃棄物保管基準の遵守(60cm以上の保管場所を示す表示)する。	○
	(産業廃棄物管理票交付等状況報告書の提出)前年度分を6月末まで実施する。	○
	産業廃棄物の処理を委託する場合の実地確認及び記録(5年間保存)については相模原市条例で義務付け(努力義務)している。	○
フロン排出抑制法	フロン類の適切な処理(第一種特定製品の整備時/廃棄時)。	○
	第一種特定製品の管理責任者は、3ヶ月に1回以上簡易点検を実施する。 (圧縮機の電動機定格出力7.5kW以上は定期点検を実施する。)	○
	第一種特定製品の廃棄等の回収依頼書の交付(回収依頼書、委託確認書、引取証明書等)。	○
	機器を設置してから廃棄した後も3年間の点検記録の保存。	○
	廃棄物・引き取り業者に引き渡す際は引き取り証明書の写しと一緒に渡す。	○
	点検等の記録の保存等	○
	取引証明書が30日以内に送付されない場合の知事への報告。	○
自動車リサイクル法	使用済自動車の引渡義務の遵守する。	○
資源の有効な利用の促進に関する法律(資源リサイクル法)	3Rの推進、使用済みPCの販売事業者への引渡し。	○
特定家庭用機器再商品化法(家電リサイクル法)	買替、廃棄等業者引渡し時リサイクル料の支払。	○
消防法 (相模原市火災予防条例)	常時、指定数量の5分の1未満を遵守(危険物の貯蔵・取扱の基準遵守)する。	○
労働安全衛生法	無事故・無災害の推進する。 (快適な職場環境の形成)	○
相模原市環境基本条例	市の基本理念にのっとり、環境への負荷の低減に努める。	○

## 8. 代表者による全体評価と見直しの結果

		文書番号: C-409-0009-07 作成年月日: 2024年4月 15日	
代表者による全体の評価と見直し記録		代表者 筒井	環境管理責任者 菊地原
評価・見直しに必要な情報 管理責任者の報告	1. 取り組み状況の評価結果 1). 環境目標 生産過程に於いて使用する電気機器はおもに照明器具やエアコン、PC等のコンセント負荷である。エアコンについては気象状況に依存するものはあるが、省エネ対応品に交換済みであり設定温度を夏季28℃冬季25℃とすることを奨励して最大限の節電を実施している。 照明器具、コンセント負荷については使用時間(=労働時間)に依存するが、生産量が増えれば自ずと使用量も増えるので、生産高に対する使用電力の対比を一つの目安として設定すべく、引き続きその推移を評価対象に活動していきたい。		
	2). 環境システム運営の定着 日常取り組んでいる節電等の目に見える活動は定着しているが、生産活動における効率化など二次的な効果を期待できる取組については、今後の工夫、活動が課題にある。		
	2. 取り組みに対する提案 CO <sub>2</sub> 削減目標と生産活動における環境造りなどで相反する事態の無い様に、理解を求めつつ創意工夫を持って臨んでいきたい。		
	3. 目標・環境活動計画の達成状況		
	目標項目	評価	コメント
	二酸化炭素排出量削減	○	本社・工場移転を控え仕事量を一時的に抑制したことで排出量は減少した。今後も目標設定を行った上で、施策を推進していく。
	廃棄物の削減	×	施策の推進を継続している。
	水使用量の削減	△	感染症対策のため削減目標を僅かであるが達成できなかった。
	化学物質の適正管理	○	適正管理を維持している。
	環境負荷低減製品の開発	○	施策を推進している。
4. 環境経営目標及び環境経営計画に対する提案 新年度より本社・工場を移転するため、2024年度実績データを元に来年度の指標として目標と計画の設定を行う。その他に関しては、施策の推進が継続できた。			
代表者による見直し	1. [環境方針] 変更の必要性: <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 制定した方針に則り活動すると共に、活動を通じて得た変化に対応して軌道修正をしながら環境方針に沿った活動をしていく。		
	2. [目標・活動計画] 変更の必要性: <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 産業廃棄物については、工事等で発生する廃棄物を規定通りに処理する様に継続的に実行する。		
	3. [実施体制] 見直しの必要性: <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 環境活動については、直面する大きな問題も無く、当面はこの体制で実施して行く。		
	4. 総括 代表者による全体の評価と見直し・指示事項 エコアクション認証に向けて掲げられている規程の確認作業の見直しを行った。電力削減については、既に10年前より省エネ機器の導入や全社員の協力による節電を心掛け、一定の成果を上げていたので、これを維持するような目標とした。 弊社は製造業ではあるが、生産工程における電力消費は比較的少なく、社員の労働時間に比して電力が左右する状況なので、今後は業務の効率化を目指し、売上高に比して電力消費がどの様に推移するかを浮き彫りにして活動し、改善していきたいと考える。 来年度については、工場移転等で設備稼働状況も新たに把握する必要があり、その推移を継続して見守る事を第一に考える。		
以上			